

視点 (902)

I Saw All America (その129) !!
 ポートランド物語 (ポートランドの特性)

ポートランドはメトロによる直接民主制をベースに、全米で最も積極的な環境保護政策を展開しており、1993年には全米で初めて二酸化炭素排出削減に着手し、既に1人当たり12.5%の排出量が削減されています(同期間に全米では13%増加しています)。

その結果、世界のグリーンシティ(環境共生都市)15都市の評価では、アイスランドの「レイキャビック」に次いで第2位にランクされました。世界のグリーンシティ15都市の順位は次の通りです(出典:Grist = 全米で最も権威あるエコロジー啓蒙誌)。

順位	都市名	国名
第1位	レイキャビック	アイスランド
第2位	ポートランド	アメリカ
第3位	クリチバ	ブラジル
第4位	マルメ	スウェーデン
第5位	バンクーバー	カナダ
第6位	コペンハーゲン	デンマーク
第7位	ロンドン	イギリス
第8位	サンフランシスコ	アメリカ

順位	都市名	国名
第9位	バイーア・デ・カラケス	エクアドル
第10位	シドニー	オーストラリア
第11位	バルセロナ	スペイン
第12位	ボゴダ	コロンビア
第13位	バンコク	タイ
第14位	カンバラ	ウガンダ
第15位	オースチン	アメリカ

ポートランドの注目される具体的な環境対策事例は次の通りです。

(1) ポートランドの公共交通網政策

ポートランドの環境対策の目玉と言えるのが、市内を網の目のように張り巡らせた「ライトレールシステム(軽軌道の新型路面電車)」です。メトロは、これをトライメットと呼ばれる運営機関に委託していますが、こういった効率的な公共交通網の整備によって、車社会といわれるアメリカにありながら、車なしでも不自由しない、歩けるまちづくりが完成しています。

また、総延長1,175kmに及ぶ自転車網も併せて整備している他、最近では高台に立つ病院等の公共施設へのアプローチ用に、公共交通機関として全米で初めてとなるロープウェイもあります。自転車利用を奨励するポートランドでは自転車を持ったまま路線バスにも乗れます。

(2) ポートランドのグリーンビル政策

ポートランドの持続可能な開発局では、グリーンビルディング(エネルギー効率改善・環境負荷低減型建築物)事業を促進するため、「グリーン投資基金」を設立し財政的な支援を行っています。具体的には、グリーンビルによって、廃棄物や資材の削減、節水、建物の雨水管理と再利用、省エネルギー、建物の再生可能エネルギーに関する技術革新を奨励しています。

また、ポートランドはグリーンビルの評価基準として、USGBC(米国環境保護建築協議会)が定めた「LEED」(The Leadership in Energy and Environmental Design)を導入し、市内で基準を満たした建物には評価ポイントに応じて3段階(シルバー、ゴールド、プラチナ)の認定を行っています。

(3) ポートランドの代替燃料政策

ポートランド市議会では、代替燃料政策について市内で販売される全てのディーゼル燃料及び全てのガソリンに対してエタノールの混合(それぞれ5%と10%)を条例で義務化しています。

(4) ポートランドの絶滅危惧種の保護政策

北米第4位の大河コロンビア川のポートランドを含む流域一帯は、古くから世界的なサーモンの生息地として知られ、一時は1,000万匹以上生息していた野生サーモン(5種)が現在では250万匹まで激減し、絶滅危惧種に指定され(5種のうち3種)、エコトラスト(オレゴン州政府が運営する環境保護団体)を中心にその保護を訴えるキャンペーンと具体的な施策を行っています。

[以上の内容は、日本百貨店協会・環境委員会の資料を参考にさせていただきました。]

(株)ダイナミックマーケティング社³
 代表 六 車 秀 之